

日本の衣服 — 技術と文化を語る シリーズ⑧— (最終回)

「江戸時代女性のファッション事情
— 移りゆく流行 — 」

3月7日(月)開催

大坂の陣（大坂の役）により豊臣氏勢力を一掃した徳川家康は、自領である江戸に幕府を開いて、およそ 260 年にわたり安定した政権を確立しました。長く続いた戦（いくさ）の時代が終焉を迎えたことで、経済的な余裕が生まれ、人々は娯楽や学問に時間を割くようになります。江戸、京都、大坂の三都は賑わいを見せ、学問・教育の発達や、絵画・諸芸能などさまざまな面で文化が開花しました。京都・大坂を中心に発展した元禄文化では、俵屋宗達「風神雷神図屏風」に代表される豪華で洗練された作品が生まれ、江戸を中心に発展した化政文化では歌川広重「東海道五十三次」に代表される浮世絵などが広まり、町人が文化の担い手となりました。

扇絵師・宮崎友禅齋が創始したと伝えられる友禅染や縮緬技術の確立など日本の染織界が大きく発展したこの時代は、女性の装いも公家・武家・町家等身分の違いによって着用する衣装や結髪などが大きく異なっていました。今回の染織文化セミナーでは、豊かな文化の発展とともに染織技術が開花する江戸時代について、共立女子大学の長崎 巖教授をお迎えし、移りゆく流行と女性のファッション事情についてお話いただきます。当日は当協会が所蔵する染織祭衣装の中から江戸時代の復元女性衣装も併せてご覧いただけますので、ぜひこの機会に多くの皆様のご参加をお待ちしております。



ながさき いわお
【講師】長崎 巖 氏(共立女子大学 教授)

<プロフィール>

1976 年東京藝術大学美術学部芸術学専攻卒。東京国立博物館学芸部法隆寺宝物室勤務、84 年同工芸課染織室、90 年染織室長を経て 2002 年共立女子大学家政学部教授。2005 年きもの文化賞受賞。染織、服装、意匠など多方面にわたって日本の染織文化や服飾文化史を研究するだけでなく、海外流失した日本の染織品の調査にも携わる。『Kimono Beauty : シックでモダンな装いの美 江戸から昭和』(東京美術 2013) 監修など、著書・共著多数。

■日 時：平成 28 年 3 月 7 日 (月) 14:00~16:00 (受付 13:30~)

■場 所：京都産業会館 5 階 コムスホール (下京区四条通室町東入 Tel.241-3147)

■参加料：無 料

「セミナー申込書」 回報先 FAXNo. (075) 211-1976 (2/26 (金) 締切)

会社名	
参加者名 (名)	